

金子鷗亭 Ⅲ期 海を書く 一鷗亭と北溟 それぞれの業一

松前町出身の金子鷗亭(一九〇六-二〇〇一)は、現代書の発展に大きな功績をのこした日本を代表する書家のひとりです。古典の研究を重んじながらも、現代の日本語にふさわしい書のあり方として、誰にでも親しめる漢字かな混じりの「新調和体」を提唱。近現代文学や自作句などを題材とする「近代詩文書」運動を推進しました。とりわけ、素材とする文学の深い理解に基づく多彩な文字表現は、芸術としての書の可能性をきりひらき、大衆に普及するきっかけをつくったとされます。

本展では、「近代詩文書」の中から「海」をテーマにした詩句の書をご紹介します。古来より海は人々の身近に存在し、猛威を振るう大自然の象徴として、人々を温かくつつむ穏やかな存在として、多くの詩人・俳人がそれぞれの文学の中で表現してきました。

北海道に生をうけた2人の書家・鷗亭と中野北溟(一九二三年生)は幼少期より親しんだ「海」を主題に、書業を通して取り組んでいます。それぞれが表現する海の表情を、墨の濃淡や運筆などの書作や文字構成の違いにも着目しながらお楽しみください。

また、特別展示として、本年開催の第六〇回記念創玄展で文部科学大臣賞を受賞した函館在住の書家・鈴木大有(一九五七生)の作品も特別展示しますので、あわせてご鑑賞ください。

出品作品リスト *2は函館市蔵(当館寄託)、ほかはすべて当館蔵

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質、形状	寸法(縦×横、cm)
1	金子 鷗亭	北原白秋詩 曇り日のオホーツク海	1987(昭和62)	屏風 (四曲一双)	171.5×423.0
2	金子 鷗亭	松尾芭蕉句 海くれて	1979(昭和54)	墨・紙、額	44.0×67.5
3	金子 鷗亭	自作句 夏の濤	1982(昭和57)	墨・紙、額	41.0×50.0
4	中野 北溟	原田康子詩 ふるさと(海)	1984(昭和59)	墨・紙、額	69.0×78.4
5	中野 北溟	朔北は茫々の海	1998(平成10)	墨・紙、パネル	178.5×384.0 (4枚組)
特別展示					
6	鈴木 大有	自作詩 氷点下の朝に	2023(令和5)	墨・紙、額	128.0×101.0

裏面へ続く

出品作品リスト *すべて当館蔵

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (幅×奥行×高さ、cm)
7		青磁象嵌八角面取花文水滴	高麗時代 14世紀	陶磁	5.0×5.0×2.5
8		青磁鴨形水滴	高麗時代 14世紀	陶磁	12.0×2.5×6.0
9		白磁染付丸形水滴	李朝 17世紀	陶磁	10.5×10.5×11.0
10		白磁染付蘭花文八角面取水滴	李朝 18世紀	陶磁	12.0×12.0×6.0
11		白磁染付山水水滴	李朝 18世紀	陶磁	7.5×6.5×6.0
12		染付角形山水水滴	李朝	陶磁	6.0×6.0×3.0
13		白磁辰砂瓜形水滴	李朝 18世紀	陶磁	11.0×11.0×7.5
14		辰砂柘榴大水滴	李朝	陶磁	16.0×16.0×13.0
15		辰砂鉄砂三桃水滴	李朝	陶磁	15.0×15.0×11.0
16		白磁染付獅子水滴	朝鮮時代 17世紀	陶磁	16.0×9.0×10.0
17		白磁染付辰砂獅子水滴	朝鮮時代 18世紀	陶磁	8.0×6.0×6.0
18		辰砂龍形水滴	朝鮮時代 18世紀	陶磁	径16.0×高5.5